

# 松山大学法学部学術研究会

**演題：『戦争と平和の法』の思想史的意義**

**講師：山内 進 先生（一橋大学名誉教授・前一橋大学長）**

## 講演概要

1625年に出版された、オランダの法学者フーゴー・グロティウスの主著『戦争と平和の法』は、近代国際法をはじめて体系的に基礎づけた著作であり、この著作により、グロティウスは「国際法の父」と称される。

シリア情勢やトランプ政権の誕生、難民問題にゆれるヨーロッパ諸国など、混迷の度合いを深める現代の複雑な国際情勢に向き合う上で、近代国際法の原点ともいえる同書の思想史的意義を再検討する作業は、今後の方向性を展望するための橋頭保となるであろう。

我が国を代表する法制史研究の大家である山内進教授を、本学にお迎えできる僥倖を喜びたい。

コーディネーター：

松山大学法学部教授 遠藤 泰弘



講師：山内 進 先生の経歴

1949年 北海道生まれ

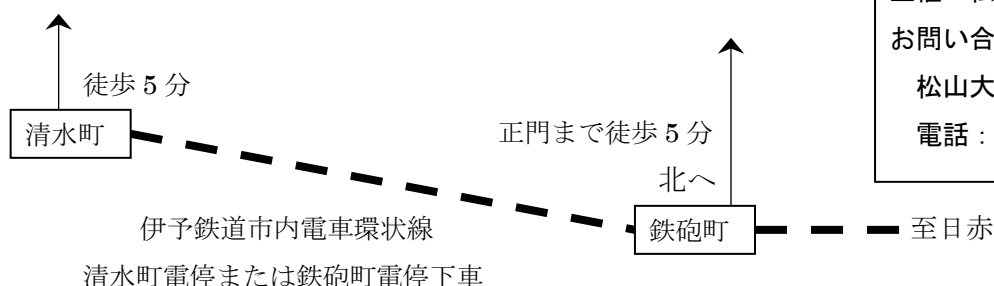
一橋大学法学部卒業、成城大学法学部助手、同講師、同助教授、同教授、一橋大学法学部教授  
一橋大学長を経て、現在、一橋大学名誉教授  
著書—『北の十字軍 「ヨーロッパ」の北方拡大』（講談社・サントリー学芸賞受賞）、『掠奪の法観念史』（東大出版会）他多数

**日時：2018年 9月27日(木)**

**14：15～15：45**

入場無料・参加自由

**場所：松山大学 樋又キャンパス H2E 教室**



主催 松山大学法学部

お問い合わせ先

松山大学教務課 法学部担当

電話：089-926-7137（直通）